

主の公現

マタイ2・1-12

今日、私たちは主の公現（ラテン語でエピファニアと言います）を祝います。「主の公現」の祭日とは、神の栄光がキリストをとおして、すべての人に現れたことを祝う日です。元々、この祭日は「三人の占星術の学者の祭日」と呼ばれていました。エピファニアは、ギリシャ語のエピファネイアで「顕現」、つまり「出現」を意味します。イエス・キリストご自身がすべての人へ顕現することです。また、イエス・キリストを通してすべての人へ顕現することです。実際、教会では、歴史的にこの祭日を降誕節の最後の日に位置づけ、祝ってきました。それで、人々はこの祭日に神顕現の恵みを受け、祝うのですが、同時に、クリスマスの意味について降誕日から顕現日までつづけて考えることができるようになりました。

今日の福音書によりますと、イエスの顕現は、神が特別に珍しい新星を空に輝かせることから始まります。この星を見た占星術の学者たちは、ユダヤ人の王が生まれたと知り、拝むために、東方からエルサレムにやってきました。彼らは、家を離れ、物質的な安全も捨て、星に導かれて、見知らぬ場所を旅しました。彼らは星が見えなくなるという道中での苦難も経験したことでしょう。間違っへロデ王の宮殿に行ってしまったのですから。しかし、彼らの唯一の望みは、この困難な探索の果てに、世の光であるイエス・キリストご自身に巡り会うことでした。最終的に占星術の学者は星に導かれ、ベツレヘムに行き、幼な子イエス・キリストに会うことができました。

私たちをキリストに導いてくれる星はなんでしょうか。親でしょうか。友人でしょうか。私の場合、両親を通してイエス・キリストと出会いました。両親から十字架の意味を教えてもらいました。また、私たちをキリストに導いてくれる星には、聖書をよむこと、教会のミサにあずかることがあります。あるいは、聖人たちの生き方に触れるということもあります。イエス・キリストに従って生きた聖人たちの輝く姿、生き方は、私たちを光の王であるイエス様に向かって導いてくれるのです。

ところで、従来、占星術の学者たちは三人であったという説がありました。黄金、乳香、没薬という三つの贈り物をささげたとあるからです。

しかし、必ずしも三人と考えなくてもよいでしょう。また、イエスさまに捧げるものはこの三つに限らないでしょう。

確かに、当時、黄金、乳香、没薬は、その三人の占星術の学者が命の主に持っていくことができる最高の物質的な贈り物でした。しかし、彼らがイエス様にあうためにした努力、命がけの旅、安全や快適さを捨て去る意志は、イエス・キリストをまことの救い主として信ずる信仰を証明する贈り物でした。

今日、私たちはイエス・キリストにどのような贈り物をささげたらよいのでしょうか。黄金や乳香や没薬をイエス様のもとに持っていくのではありません。むしろ、私たちの心、精神、魂、身体を神のもとに持っていき、ささげるのです。

今日、わたしたち自身が周りの人の光となり、イエス・キリストに導く働きをすることが求められています。

それは、もっとも小さく、もっとも弱い人を尊重することではないでしょうか。傷ついた人を癒すこと、飢えた人に食べ物を与えること、裸の人に服を着せ、家のない人に避難所を与え、他人のために自分の命を捨てることではないでしょうか。そのとき、私たちは、人々をイエス・キリストに導くために、自分の人生を贈り物として神にささげているのです。

ここに一人の神父の言葉を紹介したいと思います。かれは次のように言いました。「私がカトリックに興味を持ったのは、皆さんの良いお手本があったからです。群衆の嘲笑を受けながらも、自分の信仰に誇りを持ち続けることができる人は、何か素晴らしいものがあるに違いないと思ったのです。」

このような良い手本になることが私たち全員の課題だと思います。エピファニアとは、私たちがキリストを人々に示すことでもあります。わたしたちが伝道し、敵対する環境にあってもキリスト教の価値観をもって、希望を持ち、喜んで生きている、そのように自らが良い手本になって、イエス・キリストを示すことを意味しています。

今日、私たちは、3人の占星術の学者のように自分がいただいた贈り物と愛をもって神を崇めることができるように祈りましょう。また、わたしたちは、日々の生活の中で、人々にイエス・キリストの愛を証しし、示すことができるように祈りましょう。

Lazun naw san vincent (pime)